

ミニミニニュース

発行所
藤中学区
学校運営協
議会 事務局

より具体化する小中一貫教育

7月11日(月)、藤中学区小中合同研修会の特設部会である総合的な学習の時間部の話し合いが藤枝中央小学校の会議室で実施されました。藤中学区の小中4校の総合的な学習の時間の担当教員8名とディレクター2名の合計10名により、既に出てくる年間計画を参考にしながら育てたい子ども像「ふるさとを知り、良さを語れる児童・生徒」を達成するための具体策について、活発な意見が交わされました。各校の担当教員からは「お茶博士になろう」「藤枝の自慢」「職場体験学習」などの具体的な活動について報告がありました。ディレクターからは、瀬戸川水系の豊かな自然を生かした学習や、貴重な歴史遺産、資産を生かした学習を進めていくことの提案

がなされました。

戻ってきた歌声



6月16日(木)、藤枝中学校体育館を会場にして歌おう集会が開催されました。コロナ禍のため暫く消えざるを得なかった歌声が戻ってきました。全員マスクを着用しての合唱ではありますが、マスクをしているとは思えない大きな歌声が体育館いっぱいに響き渡りました。集会Iでは1年生と3年生が、集会IIでは2年生と3年生が合唱を披露しました。楽曲は「大切

なもの」「次の空へ」時の旅人「藤中校歌」です。まだコロナに配慮した活動ではありませんが、どの生徒も気持ちよさそうに歌っている姿に感動しました。

藤枝中学に集合した市内の小学生探検



7月3日(日)、藤枝市ネイチャーキッズ事業が藤枝中学校を集合場所とし、実施されました。NPO法人里の楽校、常葉大学習自然体験活動クラブの皆さんの協力により、市内の各小学校から参加した3年生から6年生までの児童が

童が瀬戸川を探検しました。少人数のグループに分かれて、昔の川の状態に思いを馳せながら、土手の樹木、河原の特徴、石の種類、水の流れ方などに着目して、瀬戸川中流を班ごとに探索しました。また、元井戸とそこから始まる小川という歴史的な遺産を見学しました。

SDGsに対応して

持続可能な社会の重要性が叫ばれています。藤中学区の各小中学校4校から地域の皆様にお便りなどを回覧していただくために、町内会毎に組の数の分のお便りを紙封筒を使ってお届けしていました。紙封筒は、その後の再利用が難しく環境負担が大きいと考え、小中学校4校共にクリアファイルに必要分のお便りなどを入れさせていただき、次回の会合時にお返しいただく方式にしたいと思っています。交流センタの方々、自治会長や町内会長の皆様方のご協力をお願いいたします。

「学期最後のミニミニ」運動

7月22日(金)、元気に登校する児童たち(稲葉小学校)



箏曲教授 鈴木清美声

コロナ禍によって、価値観や生活様式が一変しました。唯一変化しないものは?と問うと自然の営みではないでしょうか。昭和30年代の中央小学校区内は地域によって環境が随分違いました。自宅から学校までの道のりは遠く、登校時はマラソン、帰路は冒険。田の畦を通り、民家の間をくぐり抜け、キャベツ畑の蝶を眺め、豚小屋を覗き帰るのです。然も毎日別のルートで。その日の学

ふるさとの先達!

校での嫌な出来事も家に着く頃はすっかり忘れ、自然が吸い取ってくれていたかのようでした。それは、心の均衡を与えてくれたのだと今になって気付いたのです。この学区にも瀬戸川金吹橋北側に「元井戸」という湧き水の池があり静岡県湧水百選にもなっています。少なくともゆく貴重な自然を大切にすることが、次の世代への贈り物なのかもしれませ